

教壇に立って子供と接する傍ら、フラメンコ舞踊に打ち込んで二十年。来日中のスペイン舞踊団メンバーの協力で来月十日、東京・芝のABC会館でリサイタルを開く。フラメンコとの出会いは教職に就いて三年目の



七二年、何気なく訪れたス(し)界の第一人者河上鈴子(故人)のステージがきっかけだった。軽妙なカスタネットのリズム、情熱的なギターの響きと一体となって展開される舞台は「凜(りん)」とした美しさ。人柄がそのまま

表れる舞台だった」とい

ろ。強い感銘を受けそのまま河上教室に入門。その後三度スペインに渡り、演出家としてもギターリス

トとしても高名なディエゴ・アマジャに師事するなど本格的にフラメンコ舞踊の道を歩んできた。

「言葉はいらない。言葉なしで通じ合い、リズムに乗ってくる」というのがフラメンコの魅力とか。今回の公演でもこれを地でいった格好の創作舞踊を披露する。日本民話「鶴の恩返し」をベースにした作品で、スペイン人ダンサーと一緒に作り上げたという。

フラメンコリサイタルを開く

佐藤夏子さん

神奈川新聞

1993年1月14日(木)

「フラメンコは息が上がったと思ってもまだまだ続けられる。不思議に疲れないんです」。フラメンコの魅力につかっている。(向田 徹記者)



さとう・なつこ 藤沢市立辻堂小教諭。現代舞踊協会、日本フラメンコ協会会員。福島県出身。藤沢市片瀬2丁目で2女と3人家族。45歳。

114
神奈川新聞